



カンパニータンク2011年5月号掲載記事



代表取締役社長
佐々木 文彦

東京都出身。学業修了後、省力化装置・自動車部品を製造販売する会社に就職する。その後、新たな環境に身を置いて自分を成長させたいとの考えから退職。スポーツクラブのインストラクターを経て、1990年に独立、製造設備の自動化・省力化におけるシステム開発を手がけ始める。2000年に法人化、さらに2009年には(株)佐々木設計と改組し、現在に至る。

「自分の家族同様にお客様を幸せにしたい」 それが、佐々木設計の願いです。

創業時から、約10年周期で組織を変革してきた佐々木氏。個人事業から有限会社へ、そして株式会社への改組を経験し、次に目指すは後身の育成だ。伝えるものはノウハウや技術だけではない。顧客に対して満足・幸福をもたらしたいという想いも、一緒に伝えたいと考えている。

周囲の人々に支えられ、独立

岡安 まずは、社長が社会に出られてからの歩みを聞かせて頂けますか？

佐々木 工作することが好きだったことと、恩師からの推薦もあり、社会人の第一歩としてまず、ものづくりをする会社に入社しました。工場のオートメーション化のため、回路設計やプログラミングといった仕事に従事していました。

岡安 製造するためのものを製造するわけですから、技術立国としては欠かせないポジションを担っていたわけですね。

佐々木 しかしある朝、会社で学べることの限界を感じ、このまま会社勤めを続けていても自分自身のスキルアップはこれ以上期待できないと感じました。その

翌日より出社を拒否し、自主退社に向けて会社との交渉が始まりました。

しばらくして会社を飛び出した私は工場内で仕事をしていた反動から、人間と接する機会の多いスポーツクラブのインストラクターとして働き始めたのです。

岡安 方向性としては正反対の仕事を選ばれましたね。その期間はどれくらい続いたのですか？

佐々木 マシントレーナーとして約1年半勤めました。エアロビクスなどを通じて身体の仕組みなどを勉強できたことは生涯、役に立ちますね（笑）。

その頃、前職で付き合いのあった方より連絡があり、「設計を手伝ってほしい」と声を掛けて頂き、それをきっかけに以前の業界に戻ることになりました。多く



株式会社 佐々木設計

〒197-0815

東京都あきる野市二宮東1-3-9

ストークレジデンスA105

TEL / FAX 042-550-2610

URL <http://www.ssk-dsn.com>

の方々に助けられ、1990年に個人事業主としてスタート。久しぶりの業界復帰ということで、とにかく制御設計という仕事に打ち込んだのです。この頃から、今の仕事が天職なのかも知れないと感じ始めました。

岡安 人との繋がり、そして多くの助けがあつての再スタートだったんですね。

佐々木 そのことに対する感謝の気持ちは、なかなか言葉では言い表せないくらいに大きいですね。仕事がなく将来に不安を感じることも何度となくありました。が、「是非お願いしたい」というお客様からの電話が鳴ったことは一度や二度ではありません。

岡安 そのようなことに対し、恩返しをしたいという気持ちも大きな原動力になっているのでしょうか。ところで個人事業として独立後、手がけられた事業内容というのは？

佐々木 製造設備の自動化・省力化におけるシステム開発です。ソフトウェアの開発だけでなく制御システムのハード設計・制作。制御に関することなら、どのような案件でも無我夢中で取り組みました。使う人の立場で設計することが、楽しくて仕方のない時期もありました。

法人化という第二のステップ

岡安 個人事業としての独立が1990年。その後10年後に法人化を果たしていらっしゃいますね。

佐々木 しばらくして弟が手伝ってくれるようになり、2人で仕事をしていました。

た。兄弟で行っている会社として、ユニークだと言って頂いたお客様がいたことを、今でもよく覚えています。そして、だんだんと仕事量が増えてきたのを機に2000年11月、(有)佐々木設計として法人化したのです。

岡安 「経営者」という立場についてはいかがですか？

佐々木 全ての責任を負わないといけないので、大きなプレッシャーはあります。ただ、この立場になってからも現場第一線ですから、あまり経営者らしくないかもしれませんね（笑）。でも、それだけの面白さが現場にはあって、クライアントのことを考えながら開発を進め、鉄の塊に血が通ったかのごとく機械が動いたときの征服感と、クライアントの満足げな表情を見るというのは、何ものにも代えがたい至福の瞬間ですね。

岡安 会社の舵取りだけで終わらないというのは、顧客にとって大きなことだと思います。これも1つの特徴ですね。会社を取り巻く環境はどうですか？

佐々木 同業他社も存在しますので、会社としての個性はかなり重要なと考えています。ナンバーワンよりもオンリーワンを推し進め、徹底的に使いやすさ、親切さを極めて、ひと味違うという個性を目指しています。カタログやプレゼン資料、それ以外の面でも「違い」を大切にすること。その結果として業界のイメージアップに繋がり、若い世代がものづくりに興味を持ってもらえたなら、我々としても非常に嬉しいですね。この業界は、華やかさこそありませんが、世界中で



All You Need Is Love
自分の家族同様にお客様を幸せにしたい
それが、佐々木設計の願いです。



展示会にも出展したという、佐々木設計の想いが込められたポスター

人々の暮らしを支えている技術があります。そんな素晴らしい魅力を広く伝えていたらと思っています。

岡安 では、最後になりますが、今後のビジョンについて伺えますか？

佐々木 「株式会社」に改組したのが2009年のことでしたが、数年前より後継者育成に力を注いでおります。経営者が交代してもお客様への想い、仕事に対する想い、家族に対する想い、基本的なことは変わりが無いようにしたいですね。そのスタンスを崩さず、結果を出すことに執着したいと考えています。

これまでに培ったノウハウや知識を伝えるために、講演会や勉強会を開催しているのですが、それをきっかけに新しい展開が始まりかけています。尊敬できる両親と兄弟、そして愛して止まない家族と仲間に恵まれたこの幸せを、後輩育成という形で恩返ししたい気持ちです。

